



林業・木材産業への貢献に向けて

平成27年度重点取組事項の記者発表を行う

九州森林管理局では、4月22日、平成27年度重点取組事項の記者発表を行いました。

冒頭、川端省三局長から一般会計移行から3年目を迎え、国有林として森林の公益性を重視した森林の管理を行うこと、九州は全国的に先進的な事例を多々行っている地域であり、地域の林業・木材産業に貢献できるように事業を実施していく旨の挨拶の後、各担当部長から具体の取り組みについての説明を行いました。

重点取組事項について説明を行う局幹部



林政記者クラブ3社へ記者発表



一般紙2社へ記者発表

平成27年度重点取組事項

一 公益重視の管理経営の一層の推進

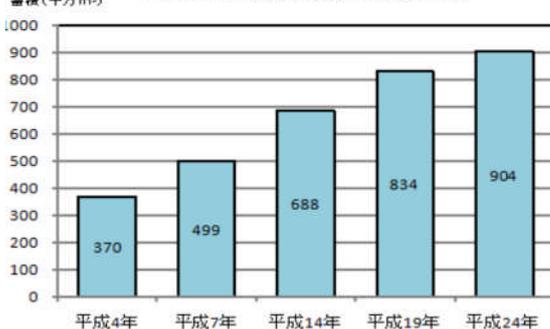
1・森林資源の循環利用による多面的機能の維持増進

九州国有林の約半分は人工林であり、これら人工林については着実に資源が充実し、利用期を迎えています。

このため、引き続き間伐を推進するとともに、将来的な年齢構成の平準化も考慮しつつ、主伐とその後への再造林を計画的に推進します。

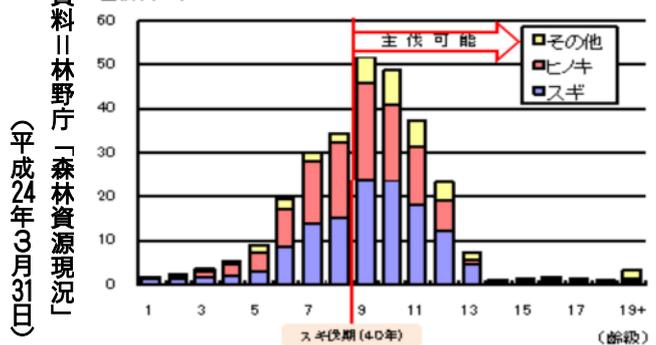
こうした取組を通じ、森林資源の循環利用を行いつつ、森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るとともに、地球温暖化対策における森林吸収源対策にも貢献します。

資料1 人工林の蓄積の推移(九州・沖縄の国有林)



資料2 林野庁「森林資源現況総括表」

資料3 人工林の齢級構成(九州・沖縄の国有林)





特定流域総合治山対策（阿蘇地域）

① 民国連携した治山事業
 近年、異常な豪雨等に伴う大規模な災害が全国各地で発生することにも、火山活動も活発な状況にあります。このような自然災害から住民の生命や財産を守るため、毎年、計画的に治山事業を実施しています。
 また、現在噴火活動が活発化している阿蘇山において、特定流域総合治山対策（※）の取組など民有林を管理する自治体などと連携することにより、事業の効率化と治山施設の効果を十分

2・国民生活の安全・安心の確保に向けた取組



平成26年度検討会の模様（宮崎県宮崎市）

分發揮できるように取り組みます。
 ※ 特定流域総合治山対策とは、国有林と民有林の治山事業実施箇所が近接している箇所において、国有林と民有林の対策を連携して一体的に実施する治山対策。
② 海岸防災林の整備に向けた検討
 東日本大震災以降、津波等に対する国民の防災意識が高まる中、平成25年度から有識者や自治体などの関係者と連携し海岸防災林の整備に係る現地などにおける検討会を実施しています。これまで、鹿児島県と宮崎県中部で海岸防災林整備方針を策定したところです。



平成26年度 木製床固工（鹿児島県出水市）
 【木材使用量 29m³】

平成27年度からは、宮崎県北部で海岸防災林整備方針を策定するなど民有林と国有林が連携した取組を展開します。
③ 木材の利用推進及び生物多様性保全に資する治山事業の推進
 現地で発生した土石や木材を使用した木製床固工や木製土留工など治山施設への木材の利用を推進します。
 また、在来種による緑化など生物多様性保全に資する治山事業の推進に積極的取り組みます。

3・生物多様性の保全等に向けた取組

(1)奄美・琉球における生物多様性保全の取組

「奄美大島・徳之島・沖縄島北部・西表島」の4島は平成25年12月に開催された「奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会」において、自然遺産の推薦候補地として選定されたところです。

このような世界遺産登録に向けた動向も踏まえ、「奄美群島森林生態系保護地域」及び「西表島森林生態系保護地域」においては、各種調査を行うとともに、保全管理計画を策定し適切な森林生態系の保護管理に取り組みます。



シマオオタニワタリ (奄美大島)

(2)公益的機能維持増進協定の取組

平成26年度は、公益的機能維持増進協定(※巻末資料参照)に基づき、国有林が屋久島町及び霧島市において協定民有林も含めた一体的な森林整備(外来種の駆除、間伐)を行いました。平成27年度においても、協定に基づき継続して外来種の駆除を行うとともに、新たな協定締結に向けて取り組みます。



外来種(アブラギリ)の繁茂状況(屋久島)

(3)8月11日「山の日」制定記念の取組

平成28年から8月11日が国民の祝日「山の日」となります。これを記念して、多面的機能の発揮に重要な役割を果たして



森林環境教育の様子

いる林業・山村に関する国民の理解が促進されるよう、森林環境教育や森林レクリエーションイベントを通し、積極的に山に親しむ機会の提供などに取り組みます。
また、大分県九重町で予定されている「山の日」記念全国大会のプレイベント(8月11日開催)について、積極的に協力します。

4・地域と連携したシカ被害対策に向けた取組

(1)シカ被害等の把握と効果的な捕獲技術の実証・普及

シカ被害の著しい地域において、被害状況の把握や、シカの



自動監視装置等を用いた囲いわな

生息密度・行動状況などのモニタリングを行い、効果的な被害対策を行います。
また、国有林内にモデル地域を設定し、地域の農林業関係者と連携を図りながら、情報通信技術を活用した捕獲技術の実証・普及に取り組みます。

(2)地域と連携した捕獲の推進

市町村・地元猟友会等による国有林内における捕獲の円滑化に取り組みます。
また、シカ被害対策の協定に基づくわなの貸し出しや、捕獲事業の実施など、地域と連携した捕獲を推進します。
さらに、県等と連携し広域に



ヤクシカの管理に関する会合の様子(鹿児島市)

またがるシカの一斉捕獲等に取り組みます。
屋久島においては、関係機関と連携し、新たなヤクシカの管理計画を策定して個体数管理を含む総合的な対策を推進します。

(3)造林地におけるシカ被害防止対策の効果及びコストの検証・普及

主伐・再造林を円滑かつ着実に進めるため、シカ被害防止対策を含めたトータルコストの軽減が喫緊の課題であり、これまで実施したシカ防護柵の設置コストや新たな工法を比較し、低コストで効果的・効率的な工法について検証します。



寝かせ張り方式



斜め張り方式

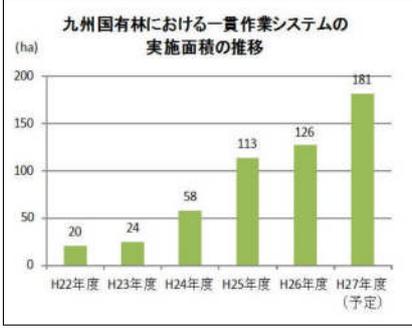
九州からの森林・林業の再生

1. 再造林の促進に向けた取組

(1) 低コスト化の取組の拡大と普及

再造林の低コスト化を進めるため、主伐箇所（誘導伐など）において時期を問わず植栽可能なコンテナ苗を用いた伐採・植栽の一貫作業により、地拵えを簡略化した作業システムを推進します。

また、将来的な保育作業の低減を図るため、植栽本数についても従来の密度（2500〜3000本/畝）から、低密度植栽（1500〜2000本/畝）を導入し、さらなる低コスト化を目指します。

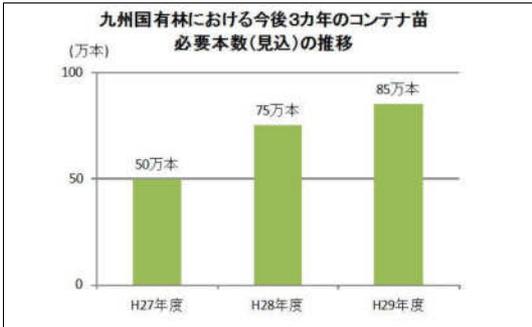


(2) 増加する苗木需要への対策

一貫作業システムの普及に伴い増加するコンテナ苗の需要に対し、生産出荷体制の調整などを目的に、昨年度から始めたコンテナ苗供給調整会議を引き続き開催します。

併せて、国有林の苗木需要動向を関係者へ情報提供することにより苗木生産の拡大と需給の安定化に寄与します。

また、コンテナ苗と同様に苗木需要が増加している裸苗の生産支援策として、国有林内の造林地における採穂適地の情報を生産者へ提供し、国有林からの積極的な挿し木用穂木の供給を拡大します。



(3) 多様な木材需要に応える取組

木質バイオマス用原料材の資源確保のニーズなど多様な木材需要に応じるため、コウヨウザンなどの成長の早い樹種も含めた分取造林を積極的に企業体へ呼びかけます。

(4) 公的機関による事業量の見通しの公表

地域の森林整備の担い手である林業事業者の育成は再造林の推進に欠かせない課題であることから、新たに県などの公的機関と国有林が連携し、年間の森林整備や素材生産などの各種事業量を県単位で公表し、事業者の経営基盤の強化、労働力の確保に資することを目指します。

2. 木材の安定供給体制の確立に向けた取組

(1) 木材需給情報の収集及び地域と連携した木材供給情報発信

ア 学識経験者及び木材の生産・流通、加工等の関係者からなる国有林材供給調整検討委員会等を通じて国有林材を含めた地域の木材需給動向の把握に取り組みます。

イ 平成27年度から新たに国有

林材の生産見通しを県別に月単位で公表します。

これにより民有林の木材生産事業者や製材工場などの木材需要者が事業予定を検討する際の参考情報として活用されることが期待されます。

さらに、民有林と国有林を合わせた木材生産見通しの公表について、公的機関へも呼びかけるなど取組の拡大を図ります。

(2) 木材の安定供給と材質等の区分に応じた利用の推進

新たな大型製材工場の進出や木質バイオマス発電所の複数稼働などに伴い、木材需要が高まる中で、安定供給システムによる販売（※巻末資料参照、以下「システム販売」という）などを通じて直材や曲がり材という区分毎に応じた資源の有効利用と安定供給を推進します。

ア 安定供給システム販売の推進

国産材の需要拡大等に取り組み製材工場等の需要者に対し素材（丸太）をシステム販売により安定的に供給します。

また、今後の増加が見込まれる主伐林分の立木販売について、複数年協定によるシステム販売を拡大します。



大型製材工場

イ 木質バイオマス発電用原料材の安定供給への寄与

今年度から本格化が見込まれる木質バイオマス発電所の稼働に向けて、原料材の需要動向を的確に把握し、システム販売などによる原料材の安定供給に努めます。

また、これまで資源として利用されていなかった初回間伐林分の立木販売の取組を拡大するとともに、需要に応じて林地残材の販売に取り組みます。



バイオマス原料材

3・森林・林業再生を牽引する人材育成に向けた取組

(1) 森林総合監理士（フォレストスター）の育成と活動の推進

将来のフォレストスター候補生の育成を図るために、地域の森づくり構想や循環的な木材生産の戦略を描く知識・技術の習得、新たな作業システムの導入等についての技術者育成研修等を実施します。

また、新たに九州フォレスト

等連絡協議会（平成26年8月設立）との共催により、民有林及び国有林のフォレストスター等の継続的なスキルアップや市町村等との連携を促進し活動の実効性を高めるための会議を開催します。



技術者育成研修の様子

(2) 林業の低コスト化に向けた技術の検証と普及

生産技術と供給体制の確立
ア エリートツリーコンテナ苗
下次の省略化など低コスト造林に資するため、エリートツリー

等優良品種を用いたコンテナ苗生産について成長等のデータを解析・実証し、生産技術の確立を支援します。
また、仕立としたエリートツリーコンテナ苗を国有林に植栽し、苗木生産に必要な穂木等の供給源として国有林のフィールドを活用するなど供給体制の確立を目指します。



エリートツリーコンテナ苗の生産状況

イ 低密度植栽造林地等の更なる検証データの集積と導入・普及

平成16、17年度に植栽を行った低密度植栽箇所について、樹種（スギ・ヒノキ）別の成長等

のデータを更集積し、国有林における新規造林に導入するとともに民有林への普及に努めます。

また、大苗植栽による下刈等保育作業の低コスト化についても検証を進めます。



低密度植栽造林地(ヒノキ)

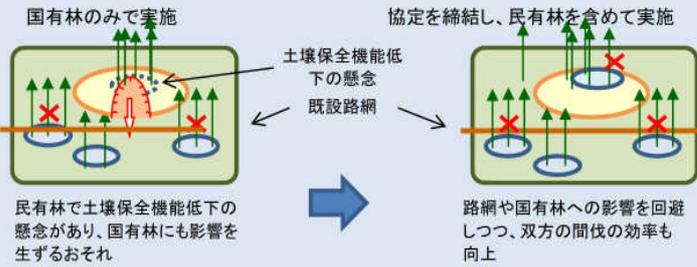
ウ これまでの技術開発課題のデータベース化

これまで森林技術・支援センター等において取り組んできた技術開発について、昭和48年度から平成25年度までの成果報告をデータベース化し、九州森林管理局のHPに掲載します。

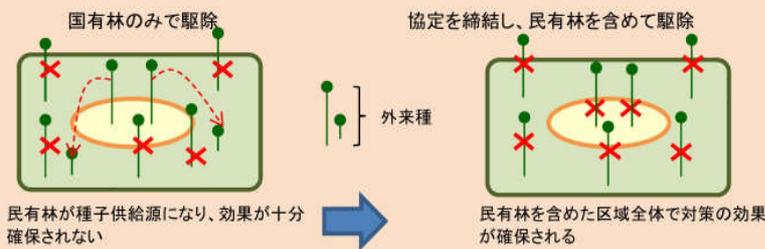
（担当II企画調整課）

公益的機能維持増進協定のイメージ

イメージ①(間伐遅れ民有林による影響回避)



イメージ②(外来種の駆除に資する伐採)



- : 所有者等から事業費の1/3を上限に負担を求め、国有林分の事業と一括して発注
- : 協定により、伐採対象木を権利放棄とした場合、国の立木と見なして、国有林の事業として実施

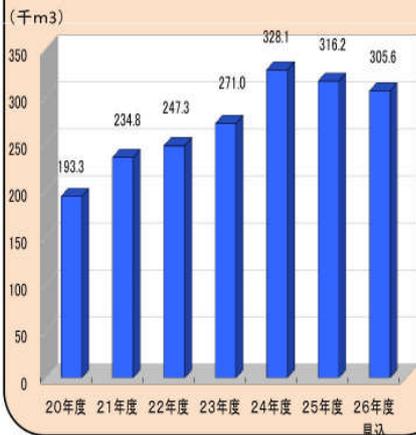
安定供給システムによる販売(素材)の取組

国有林材の安定供給システムによる販売(以下、「システム販売」とは、国産材の需要・販路を拡大する必要がある一般材及び低質材の有効活用等に取り組む製材工場等の需要者を公募し、選定された需要者と協定を締結した上で、協定に基づき安定的に国有林材を供給する仕組み

■ 素材のシステム販売の実績

平成26年度は約31万m³のシステム販売協定を締結。安定供給に対する需要者のニーズは高く26年度は公募量に対し3倍以上の応募がある状況。

また、22年度から森林共同施業団地の民有林協定者等との協調出荷による民国連携のシステム販売にも取り組み、26年度には10者と約1万m³の協定を締結。



■ システム販売への応募状況 (H26)

		(数量単位:m ³)								
		前期			後期			計		
		公募量	申請量	倍率	公募量	申請量	倍率	公募量	申請量	倍率
A材 B材	スギ	89,290	206,250	2.3	98,790	282,640	2.9	188,080	488,890	2.6
	ヒノキ	21,700	62,190	2.9	22,570	69,820	3.1	44,270	132,010	3.0
	計	110,990	268,440	2.4	121,360	352,460	2.9	232,350	620,900	2.7
C材	製紙等用		76,410		26,380	99,810	3.8		176,220	
	バイオマス 発電用	32,730		4.2	17,480	101,120	5.8	76,590	161,170	4.4
	計	32,730	136,460	4.2	43,860	200,930	4.6	76,590	337,390	4.4
合計		143,720	404,900	2.8	165,220	553,390	3.3	308,940	958,290	3.1

■ 民国連携によるシステム販売

年度	協調出荷者数	協調出荷量 (m ³) (民有林分協定量)
H25	7者	9,390
H26	10者	10,180

3つのプログラムで 森林教室を実施

【都城支署】 都城市立安久小学校体育館及び駐車場において、同小4年生38名に「森林の役割についての学習」「木工クラフト」「丸太切り体験」の3つのプログラムで森林教室を行いました。

「森林の役割についての学習」では、プロジェクトを使用し、森林の持つ公益的機能や林業という仕事について模型を用いた説明を行いました。説明の中で、



中田 隆昭さん



私は鹿児島県屋久島に住んでおります。島内で発行されている広報紙「洋上アルプス」（林野庁屋久島森林生態系保全センター発行）で、本モニターのことを知り応募させていただきました。

森林の土砂崩れを防ぐ役割と水を地中に染み込ませる働きがわ



講師の説明を熱心に聞く児童

かる実験を行い、児童からは納得する声や感心する声が聞こえ、児童達の記憶に残る学習となりました。

「木工クラフト」では、表札とネームプレート作りを行いました。児童達は、用意した材料に場所や名前を書き、思い思いの飾り付けをしながら、自分だけの表札とネームプレート作りに集中していました。

「丸太切り体験」では、周りの声援を受けながら児童一人一人が懸命に鋸を引いていました。また、切り終えた時には、達成

感に満足しつつ、切り終えた丸太の年輪を数えたり、匂いを嗅いで喜び、大事に持ち帰っていました。

今回の森林教室をおとし、森林の大切さや林業という仕事の重要性について学んでもらうことができました。

また、同小での森林教室は、今回が初めての実施であり、当支署としては、今後も積極的に協力を行いながら森林の役割・自然環境との関わりについての知識や理解をより深めてもらえるよう取り組んでまいります。

根を踏んではいけません

した。

島の森が世界自然遺産に登録され、はや20年。慣れ親しんできた森林環境が目に見える勢いで変わり行くこの歲月の中、私達島民は日々の生活をおくっています。

さて、島が持つ特異的な自然環境、とりわけ中心山岳部に向けた観光者の関心は高く、いま仮に観光密度分布を地図上に濃淡で表したとすると、島の中心部に濃い色が塗られているのが現状です。島面積の9割近くを占める山全体に畏敬の念を抱き、

そこからもたらされる恩恵で歴史を重ねてきた民の心中は、否応なくこの現実と向き合わなければならなくなりました。

島人（しまびと）は私を含めプライベート風景なる、個々を癒やしてくれる場所の一つや二つは皆持ち合わせています。そこに出向き、花鳥風月を心身に溶け込ませるわけですが、自然の織りなすその変わるでもない変わり方、ゆったりとした移ろいは、島人の内なるリズムを整え、安堵の表情を浮かばせてきました。当然、台風をはじめとする天変

はその景色を一部塗り替えもしますが、それとて自然の成り行きと寛容に受けとめてきたのが島人の多くです。

ところが昨今、自然ではない変化が急速に「濃い色」部分で多く目立つようになってきました。この不自然な変化は島人愛する風景にノイズとなって残り、皆の中に先行き不安な感情となって漂いはじめています。

自然の持つキャパシティを越えた利用が原因のようですが、「有名観光地はどこも似たような問題・・・」と一括りにされると、島と民との関わりがないがしろになり、享受されてきた恩恵にまで背を向けることになり

懸命に鋸を引く児童



ます。

私事で恐縮ですが、「根を踏まない森林浴」を言い続け、それならばと空中を歩く樹上回廊を公開して十年がたとうとしています。世界に冠たる森林自然環境を、島の子や孫・後世にまどう伝え、どう残すか。その為には島人はどうすれば良いのか。もがいている最中でもあります。

いつも見る里山の、その奥に連なる山々。その大部分を占める国有林について、もう少し知りたい、ほんのちよっとでも前向きな方策を探りたい、と願うこの頃です。どうぞ、ご教授ください。

（鹿児島県屋久島町在住）

新任挨拶 どうぞよろしく

平成27年4月1日付けの異動で新しいポストに着任した次長（業務管理官）・3人の部長・6人の課長・9人の森林管理（支）署長を紹介します。

次長 （業務管理官）



中山 浩次
なかやま こうじ

計画保全部長として二年間大変お世話になりました。引き続き九州局で民有林と連携した取組や主伐・再造林の円滑な推進など、関係の皆様と力を合わせ地域の森林・林業に貢献できるように全力で取り組んで参りたいと考えていますので、よろしくお願いたします。

年齢 52歳
出身地 熊本県
前職 計画保全部長
抱負 計画保全部長として二年間大変お世話になりました。引き続き九州局で民有林と連携した取組や主伐・再造林の円滑な推進など、関係の皆様と力を合わせ地域の森林・林業に貢献できるように全力で取り組んで参りたいと考えていますので、よろしくお願いたします。

総務企画部長



堂本 整
どうもと せい

6年ぶりの九州森林管理局勤務となりました。一般会計3年目、国有林の技術、人材、フィールドを活かした国民目線での円滑な業務運営に向けて、更に身を引き締めて取り組んでいきたいと考えていますのでよろしくお願いたします。

年齢 55歳
出身地 福井県

とにかく、健康で！ 明るく！ 元気に！ 前向きに！

計画保全部長



吉永 俊郎
よしなが としろう

九州局は初めてですが活気のある明るい職場だと感じています。トップフロンティアである「チーム九州」の一員として、チームワークを高めつつ、主伐・再造林をはじめ取り組むべき諸課題について、皆さんと一緒に前向きに取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

年齢 51歳
出身地 鹿児島県

森林整備部長



大政 康史
おおまさ やすし

離れていた間に、局の先進的な取組が各県に広がりがつつあるだけでなく、川下での施設整備も充実してきており、改めて感動しつつ着任しました。この勢いを止めることなく、次世代のことも考えながら九州からの森林・林業の再生に精一杯取り組みたいと考えておりますので、宜しくお願致します。

企画調整課長



井堀 秀雄
いぼり ひでお

13年ぶりの経理課勤務です。国有林が一般会計に移行して3年目となり、これまで以上に契約の競争性及び透明性の確保と適正な予算管理・執行などについて説明責任が求められることから、局内、署等との連携を図りながら取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

年齢 48歳
出身地 愛媛県
前職 林野庁森林整備部研究指導課技術開発推進室長
抱負 九州局へは11年ぶり、九州では大分県庁出向以降4年ぶりとなる勤務です。

経理課長



山本 一則
やまもと かずのり

九州局は初めてですが活気のある明るい職場だと感じています。トップフロンティアである「チーム九州」の一員として、チームワークを高めつつ、主伐・再造林をはじめ取り組むべき諸課題について、皆さんと一緒に前向きに取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

治山課長



川上 伸一
かわかみ しんいち

年齢 57歳
出身地 熊本県
抱負 今回、資源活用課長から森林整備課長に異動となりました。森林整備課の業務は造林、林道、分収林、薬剤関係など多岐にわたり、それぞれ課題を抱えていることから、局課内は元より署等との連携を密にし、常に前向きに対応する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

森林整備課長



古閑 博行
こが ひろゆき

年齢 52歳
出身地 熊本県
抱負 近年、異常な豪雨、地震等に伴う大規模な災害が発生するとともに、火山活動も活発化しています。このような自然災害から地域住民の安全・安心を確保するため、民有林と国有林との連携により、災害に強い森林づくりに取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

年齢 57歳
出身地 宮崎県
抱負 これまで国有林は北海道、近畿中国、四国、九州局と渡り歩いてきました。生産・販売関係は四国局の販売課以来3年ぶりとなります。先進的取組を進めてきた九州局の資源活用課で仕事をできることに誇りをもち、良き伝統をつないでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資源活用課長



前田 三文
まえだ みふみ

年齢 55歳
出身地 熊本県
抱負 民有林や地域の関係者との連携を図りながら、現場重視を徹底し、技術開発・人材育成やフォレストスター活動の実施により民有林支援を推進するとともに、国民参加の森づくりや森林環境教育により森林・林業への国民の皆様の理解を促進するよう取り組んでいきたいと考えています。職員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

技術普及課長



甲斐 博文
かい ひろふみ

長崎森林管理署長



岡本 一孝
おかもと かずたか

年齢 53歳
出身地 鹿児島県
抱負 利用期を迎えている森林資源の計画的・効率的な有効利用をいかに図っていくか、そして地域振興に貢献していくかを職員の方々と関係者と十分に検討しつつ、公益的機能の發揮と林業とのバランスのとれた管理運営に取り組むとともに、職員一同結束して災害のない明るい職場づくりを目指します。

熊本南部森林管理署長



濱田 秀一郎
はまだ しゅういちろう

年齢 55歳
出身地 熊本県
抱負 今回の異動で、九州局勤務は大分西部署、沖繩署に続き3回目です。安全で健康な明るい職場づくりに努め、公益重視の管理経営の推進と長崎県の森林・林業の再生に、民有林行政と一層の連携を図り、職員の皆様と力を合わせ取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

大分西部森林管理署長



秋山 郁男
あきやま ふみお

大分森林管理署長



川畑 宏二
かわばた こうじ

年齢 56歳
出身地 福岡県
抱負 管内に日田林業地を抱え、くじゅう連山、由布岳、鶴見岳の自然公園等自然環境も良好に保護・保全されている当署において、「九州からの森林・林業再生」の実現に向けた取り組みを推進するとともに、災害のない健康で明るい職場づくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

年齢 57歳
出身地 鹿児島県

抱負 今回、三年ぶりに二回目の九州勤務となりました。職員のみなさんと力を合わせ、十分に森林管理署があつてよかったと言われるように尽力したいと思えます。また、コミュニケーションをとり(昼も夜も)、災害のない明るい職場を目指します。

宮崎北部森林管理署長



工藤 孝
くどう たかし

年齢 55歳
出身地 熊本県
抱負 森林林業の再生に向けて、民有林とも一層の連携を図りながら地域に貢献できる国有林を目指すとともに安全で健康な明るい職場づくりに努めます。よろしくお願ひします。

西都児湯森林管理署長



桃木 康雄
ももき やすお

年齢 55歳
出身地 鹿児島県
抱負 藩政時代からの流れをくむ、長い歴史と伝統のある飫肥林業地域の森林管理署で仕事ができることを大変嬉しく思っています。また、職員の皆さんとともに、災害のない明るい職場を作っていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

年齢 57歳
出身地 北海道
抱負 九州局は初めての勤務なので一日も早く馴染むよう努めます。また、九州の先進的な林業技術などを学び、地域に必要とされる国有林としての存在感を一層深めるため、地域と溶け込み良い山づくりと明るい職場環境づくりに取り組まします。今後ともよろしくお願ひ致します。

宮崎南部森林管理署長



石神 智生
いしがみ ともお

年齢 52歳
出身地 福岡県
抱負 初めての九州局勤務、久しぶりの国有林勤務です。何はさておき、皆様とともに健康で安全な、明るい職場、風通しのよい職場づくりに努め、沖縄県の森林・林業の発展に貢献できるように全力で取り組みたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

沖縄森林管理署長



清水 俊二
しみず しゅんじ

年齢 55歳
出身地 熊本県
抱負 事業量等が九州トップクラスの都城支署に二度目の勤務となりましたが、職員の皆様、各事業が計画通りに実施できるよう努めて参りたいと考えますので、よろしくお願ひします。
(担当：総務課)

宮崎森林管理署 都城支署長



山部 義臣
やまべ よしおみ

希少野生動物の路上への出現頻度が増加し、多くの希少野生動物が交通事故で死傷しています。昨年は、2012年と並ぶ過去最多の事故発生件数を記録しました。

このような状況を打破すべく連絡会議参加団体を連携し、ロードキル防止を呼びかけるヤンバルクイナやケナガネズミがプリントされたリーフレットを配布し、注意喚起を行いました。

当日は、同会場で奥ヤンバル鯉のぼり祭りが開催されたこともあり、地域内外からの多くの参加者で賑わい、より多くの方にやんばる地域のロードキル事情について、普及啓発することができました。

ヤンバルクイナ 事故防止キャンペーン

【沖縄森林管理署】5月3日、沖縄本島北部の国頭村「奥ヤンバルの里」において、「やんばる地域ロードキル発生防止に関する連絡会議」の主催により、ヤンバルクイナ交通事故防止キャンペーンが行われ、当署からも4名が参加しました。
沖縄本島北部では、5月頃からヤンバルクイナをはじめとす



リーフレットを配布し注意喚起

治山・林道工事コンクール表彰式

《優良工事施工業者4社と技術者など7人を表彰》

平成26年度治山・林道工事コンクールの表彰式を4月8日、局長室において開きました。

このコンクールは事業効果の発現が顕著なものについて、実施要領に基づく取り組みテーマ（コスト縮減・技術提案・環境配慮）に合致した工事の中から、優良工事が選定され、工事内容が良好で他の模範に当たると判



表彰された関係者のみなさん

- 断された、治山工事3社、林道工事1社に対して局長表彰を行いました。
- また、局長表彰に併せて局が推薦した1社が農林水産大臣賞（治山工事）、2社が林野庁長官賞（林道工事）を受賞されたことから、屋久杉の額縁を贈呈し、当該工事の担当技術者並びに監督職員に対し、局長表彰を行いました。
- 受賞者は次のとおりです。
- ◆農林水産大臣賞
 - 桜島地区治山工事（古河良川下流）
 - 《鹿児島署発注》
 - 株式会社島津建設
 - 代表取締役 葉山薫
 - ◆林野庁長官賞
 - 内山2012林道新設工事
 - 《宮崎署発注》
 - 松本建設株式会社
 - 代表取締役 松本純明
 - 大鹿倉3066林道新設工事
 - 《大隅署発注》
 - 株式会社桑原組
 - 代表取締役 桑原克幸
 - ◆九州森林管理局局長賞
 - 【工事の部】
 - 祝子川治山工事
 - 《宮崎北部署発注》
 - 株式会社山崎産業
 - 代表取締役社長 山崎司
 - 桜島地区治山工事（あみだ川第1支流第6分流）
 - 《鹿児島署発注》
 - 株式会社植村組
 - 代表取締役 桑原宏志
 - 桜島地区治山工事（西道川第2支流第3分流）
 - 《鹿児島署発注》
 - 株式会社有迫組
 - 代表取締役 久永義治
 - 茶臼岳2167林道新設工事《宮崎署発注》
 - 株式会社長友組
 - 代表取締役 長友正憲
 - 【技術者等の部】
 - 桜島地区治山工事（古河良川下流）
 - 現場代理人 田中宏一郎（株式会社島津建設）
 - 主任技術者 野添博幸（株式会社島津建設）
 - 監督職員 西山太英 鹿児島署（現熊本南部署）
 - 内山2012林道新設工事
 - 主任技術者 漆島照彦（松本建設株式会社）
 - 監督職員 柿本一宏 宮崎署（現宮崎南部署）
 - 大鹿倉3066林道新設工事
 - 主任技術者 福園貴生（株式会社桑原組）
 - 監督職員 藏富英典 大隅署（現西都児湯署）
 - （担当〓治山課）

日南市富土地域 森林整備推進協定を締結

【宮崎南部森林管理署】3月30日、当署において南那珂森林組合との間で「日南市富土地域森林整備推進協定」を締結しました。

この協定は、日南市富土地域において、これまでの協定区域を391鈔拡大し、民有林、国有林合わせて677鈔の森林を対象としたもので、民有林、国有林が一体となり森林・林業の再生に向け、森林の多面的機能の高度発揮と資源の循環利用をさらに推進して行こうというものです。

日南市富土地域森林整備推進協定調印式



協定締結後握手を交わす両者

菊池渓谷で山開き

【熊本森林管理署】くまもと自然休養林菊池水源地区の菊池渓谷で山開きが行われ、菊池渓谷を美しくする保護管理協議会をはじめ関係者約100人が出席し、今シーズンの無事故を祈願しました。

神事に続き、森本義春署長が、森林の有する公益的機能や、緑と水が織りなす菊池渓谷の景観美などについて挨拶を行いました。

最後に関係者によるテープカットが行われ、淡い新緑の下で今シーズンの幕開けを祝いました。



関係者によるテープカット

みどりの募金贈呈

森づくりと木づかいを通じ東日本大震災を支援

緑の募金運動は、国土緑化運動の中核的な推進手段として国民参加の森林づくりを推進するために一層の進展が期待されるところととも、「森づくりと木づかい」を通じて東日本大震災の復興を支援していくことが求められています。

このため、「緑の募金全国一斉強調月間」として、「みどりの月間」（4月15日～5月14日）を重点的に募金活動が展開されています。

この「緑の募金全国一斉強調月間」に先駆け、4月9日九州森林管理局局長室において、緑の募金贈呈式が行われ、一般社団法人熊本林業土木協会会長永野征四郎氏から川端省三局長へ



永野会長（左）から川端局長へ

募金が手渡されました。

一般社団法人熊本林業土木協会からは毎年募金の贈呈が行われており、局内の募金とあわせて国土緑化推進機構及び熊本市地域緑推進協議会に送られ、全国の森林整備や緑化推進事業に活用されています。

（担当 川技術普及課）



渓谷沿いの湿度の高い登山道を敷き詰めていると強い匂いがしてコクサギの存在が分かりやすい。雌雄異株のミカン科で、葉を透かしてみると油点を観察することが出来ます。

コクサギの特徴は、葉が交互生とあって1方向に2枚ずつの葉が交互に付いていることです。ネコノチチ（樹木園西側）、イソノキでも観察できます。

植物の葉は基本として、葉を揉んで葉に含まれている精油を壊して、成分が外に出て匂いが

谷建設新入社員記念植樹

【長崎森林管理署】4月10日、東彼杵町にある遠目国有林25ろ

林小班において、株式会社谷川建設の新入社員17名による記念植樹が行われました。当日は、0・16畝にヒノキやカエデ、ヤマザクラ、約300本を植樹しました。天候はあいにくの雨と霧に包まれてしまいましたが、合羽や靴を泥だらけにしながらかも、職員の指導を受けつつ笑顔で植樹を行うことができました。今後、自分たちの植えた苗木



職員から指導を受ける社員

とともに、新入社員のみなさまが大きく成長されていくことを願い、無事に記念植樹を終えました。

91 コクサギ (ミカン科)

分かる仕組みです。しかし、コクサギやドクダミは人が近づくと自然に匂いが出てきます。植物が身を守るために匂いを発散するのでしょうかが不思議です。

昔は殺虫剤や忌避剤が少なかったので、コクサギを煎じて牛の体を拭きハエの忌避剤として、トイレに流し込んでハエの幼虫駆除をしていたそうです。

名前は、小臭木でコクサギのよくな匂いがあると木が小さいことから名前が付けられています。



みどりの散歩路

4月30日に鹿児島県東部に大雨が降り、肝付町内之浦地区の全1949世帯に避難勧告が出されました▼内之浦地区では24時間雨量が393.3mmと過去最高を記録するなど、記録的な大雨でした▼幸いにも大雨による人的な被害は無かったようですが、昨年の九州北部の大雨、広島県での大雨による災害など、近年は局地的な大雨による災害が多くなってきています▼これから梅雨に入っていきますが、梅雨の末期に日本海側で雨量が増え続けていくそうです▼気象庁のデータによると、梅雨末期の雨量はこの100年で約50%増えている、現在も増加傾向にあるとのこと▼なぜ日本海側で梅雨の末期に雨量が増えるのか理由ははっきりしないようですが、地球温暖化の進行との関連も指摘されています▼気象庁の予報では今年の梅雨時期の雨量は少なくなる見通しとのことですが、局地的な大雨はいつでもでの予測が難しいようです▼梅雨や台風などによる大雨が予想される時には、気象情報などを確認し、早め早めの対応をお願いします。

(つ)